

むらかみのせんだいのおほむとときに「ぼうせんちゆうしやくぷりん」と

次の () 内の挿入注釈を参考に、ノートに書写した本文に傍線注釈をしなさい。 仮名書きを常用漢字に直すこと。 () 内は傍線注釈では挿入として記すことになる。 **挿入注釈は必ず書くこと。** また、《 》には自分で考えた挿入句を入れること。

太字の語の文法的説明を本文の左側に書く。(なぜそう判断できるのか理由も書く。) 担当に当たった人は、**授業開始前に黒板に傍線注釈をノートから写し、下段にある問に答えられるように準備しておくこと。**

登場人物 () () () () () () ()

①村上の先帝の御時に、雪のいみじう降りたりけるを、《 》は《 》を(様器に盛らせ給ひて、《 》に)梅の花をさして、月のいと明かきに、

②「これに(ついて)歌よめ。いかが言ふべき。」と、兵衛の蔵人に給はせたりければ、

③《 》は「雪・月・花の時」と奏したりける(おへんじ)をこそ、《 》は(いみじうめでさせ給ひけるに、

④《 》は「(こんなとき)歌などよむは世の常なり。かく、折に合ひたることなむ、言ひがたき。」とぞ仰せられける。

⑤《 》は(同じ人(《 》を御供にて、殿上に人候はざりけるほど、《 》が)たたずませ給ひけるに、

⑥火櫃にけぶりの立ちければ、「かれは何ぞと見よ。」と《 》が仰せられければ、《 》は(見て帰り参りて、

⑦わたつ海のおきにこがるる物見ればあまの釣りしてかへるなりけり

※掛詞を3点指摘しなさい。

おき



⑧と《 》が奏しけるこそをかしけれ。(じつは)蛙の飛び入りに焼くるなりけり。

①「盛る」の主語は何か? どうしてそう判断できるのか?

②「給ふ」と「給はす」の違いは?

③「奏す」は特別な敬語である。どのような敬語か?

④帝は何に感心したのか?

⑤「殿上」とは何か?

⑥「かれ」とは何か? 何を「見よ」と言ったのか?

⑦表の意味と裏の意味をまとめよう。

copyright © 2012 片桐史裕

尊敬……動作の主体を敬う。 謙讓……動作の相手を敬う。 丁寧……読み手・聞き手を敬う。

敬語を指摘し、基本形、敬語の種類、品詞、現代語訳、誰から誰への敬意かをまとめなさい。

※例に応じて連語の場合も欄を別にして記すこと。現代語訳は助動詞・補助動詞の場合は附属している用言を含めた訳にすること。

[bosen]makuranososhimurakaminosendai.jtd